

保護司の活動支援について 特別支援学校就学に関わる課題

川崎市議会議員 矢沢たかお

12月17日に閉会した市議会第6回定例会で一般質問に立ちました。その中から「保護司の活動支援」、「特別支援学校就学に関わる課題」についてご報告致します。

活動拠点の整備を

ています。

更生保護行政において人たちと定期的に面接を保護司は重要な役割を行う保護観察は、主に自担っています。担い手不在での面談となっており、プライベートへの配慮が課題となっており、プライバシーへの配慮等が課題となっており、プライバシーへの配慮中、保護司の活動を支援 慮や保護司家族の理解がする為の拠点整備を求め 必要です。そこで、面談の声が登場からは挙がっ 場所の確保等を目的とし

た拠点整備について質問しました。

健康福祉局長からは、「現在、川崎区と中原区で開設されている『更生保護サポートセンター』の設置に向けて、他区での設置の検討を行っている」と答弁。同センターに常駐となる企画調整保護司の担い手確保が課題ではあるものの、宮前区

長からは「保護司会との調整を進めながらサポートセンター設置に向けた検討を進め、活動の支援に努めていきたい」と答弁がありました。引き続き、拠点整備に向けた取組を進めて参ります。

統一なき

進学希望調査

し、なぜ問題が起きているのか、課題と改善策について質問しました。

特別支援級に通学する

答弁で分かった課題

小学6年生の保護者からは、市教委が各学校に示ら、特別支援学校への進している進学プロセスは学に関する相談を受けま あくまで推奨であり、実した。通常進学は、2回 際は①各学校によって進の個別相談を実施したう 学希望調査方法が異なるえで、相談票を用いて本 ②家庭への情報提供や関人・保護者の意向を把握 係者間の情報共有が不十することを市教委として 分だったという事です。は推奨していたにも関わ 本件の事実を認めつつ、らず、当該校において 教育長は「就学に関するは、個別相談を一度も実 手続きを統一し、活用し施せず、本人・保護者の てきた関連資料を本人・意向を相談票を用いない 保護者、学校、特別支援まま、口頭でのみ確認し 教育センターの役割を明ていました。結果、家庭 確に示したものに改訂、の意向とは異なる方向で 三者が就学先決定までの就学手続きが進むという 共通した見通しを持てる問題が発生しました。近 よう、各学校に対して周年、同様の相談が複数寄 知徹底する」と答弁。二せられていた為、各学校 度と同じような問題が発生しないよう今後の取組による進学希望調査から 生しないよう今後の取組市教委が示す流れを調査 を注視して参ります。



矢沢たかお

●川崎市宮前区初山生まれ(35歳)
菅生小、菅生中卒/法政大学
第二高等学校卒/法政大学情
報科学部卒/商社系IT企業

2019年4月2期目当選

事務所

宮前区初山1-20-12
Tel 044-976-2727